

子育て世帯数が初の1千万割れ

厚労省、国民生活調査

に見ると、「児童1人」が49・3%とほぼ半数に上り、「2人」が38・0%、「3人以上」が12・7%だった。同居の家族らによる介護では、介護を受ける人と世話をする人がともに65歳以上で、「老老介護」が63・5%で、19年調査から3・8%に上昇した。

高齢者世帯は1693万戸。金世帯に占める割合

厚生労働省は4日、2022年国民生活基礎調査の結果を公表した。児童（18歳未満の未婚者）がいる世帯数は991万7千で初めて1千万世帯を下回った。

金世帯に占める割合も、19年の前回の大規模調査から3・4㌽低下し18・3%と過去最低を更新。少子化の加速が改めて示された。「老老介護」は過去最高の63・5%に達した。

【24面に闇運記事】

岸田政権は6月に「ことも未来戦略方針」をまとめたものの、財源の裏付けなど不透明な面が多く、少子化対策の実効性が問われている。

児童がいる世帯を人数別

は、19年の前回の大規模調査から2・5㌽上昇し31・2%だった。高齢化が進む中、単独世帯も1785万戸へ増えた。19年から4・1㌽上がり32・9%を占めた。

高齢者世帯と単独世帯は、いずれも初めて3割を超えた。厚労省は「高齢化が進み、夫婦の一方が亡くなる」とで単独世帯が増えているのではないか」と分析した。

調査は昨年6～7月に実施。今回は3年に一度の大規模な調査で、質問項目やサンプル数を増やした。世帯に関する調査は20万3819世帯、所得・貯蓄は1万9140世帯、介護は5499人の回答を集計した。